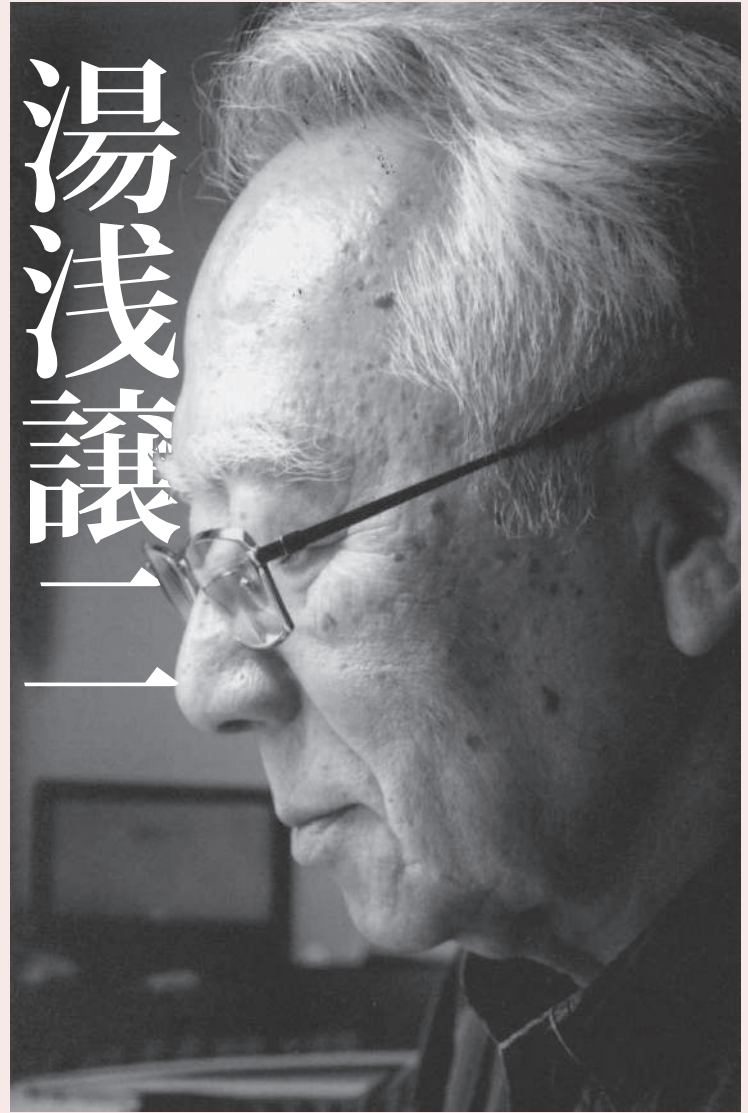




一柳 慧



湯浅讓二

The
Cross
Talk +

音と言葉で振り返る
二人の巨匠の昭和と平成

2020年3月21日

13:30 開場 14:00 開演

サントリーホール
ブルーローズ

全席自由 前売 一般 4,500 円 学生 2,200 円
当日 一般 4,800 円 学生 2,500 円

出演 湯浅讓二 一柳 慧

【聞き手】

北爪道夫 猿谷紀郎

演奏 三橋貴風 (尺八)
吉村七重 (二十絃箏)
松原勝也 (ヴァイオリン)
三宅依子 (チェロ)
篠田昌伸 (ピアノ)
藤原亜美 (ピアノ)

チケット



専用申込みフォーム

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/733bbe8f350583>

東京コンサーツ

<http://www.tokyo-concerts.co.jp/>

☎ 03-3200-9755 (平日 10:00~18:00)

e+ (イープラス)

<http://eplus.jp> 「THE CROSS TALK PLUS」で検索



©Jun'ichi Ishizuka

湯浅譲二

1929年郡山市に生まれ、安積中学を出て、慶大医学部進学コースに学ぶが、3年になる時に医学よりも作曲に人生をかけることを決心する。実験工房（1952年から）に入り、作曲に専念する。以来、オーケストラ曲23曲、電子音楽、1953年に始めて電子音楽を目指し、以来13曲、合唱音楽38曲などを作曲、そして、イタリア賞2回、尾高賞4回、日本芸術祭大賞、京都音楽賞、サントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、日本芸術院賞、恩賜賞、旭日小綬章、ルーマニア国立音楽大学から、2009年に名誉博士号が授与、文化功労者になっている。



©Koh Okabe

一柳 慧

1950年代渡米後、ニューヨークを中心にジョン・ケージらと実験的音楽活動を展開し、61年帰国。偶然性の導入や図形楽譜を用いた作品など、作曲、演奏の両方で意欲的に活動。日本音楽界の中心として、自作ならびに欧米の新しい音楽の紹介、伝統楽器群や声明を用いた新しい視点によるプロデュース活動他で様々な分野に強い刺激を与えている。これまでに尾高賞を5回、フランス文化勲章、毎日芸術賞、京都音楽大賞、サントリー音楽賞、文化功労者など多数受賞。作品は3つのブランド・オペラ、10曲の交響曲ほか、器楽曲、各種の協奏曲、電子コンピューター音楽、雅楽、聲明、など多数。現在、公益財団法人神奈川芸術文化財団芸術総監督。2017年に恩賜賞、日本芸術院賞を受賞、2018年度にはアメリカの現代芸術財団よりジョン・ケージ賞を受賞している。2018年文化勲章を受章。

湯浅譲二

プロジェクション・トポロジク(1959)
ピアノのための

内触覚的宇宙 III(1990) —虚空—
二十絃箏と尺八のための

芭蕉の句による四つの心象風景(2007-10)
ヴァイオリンとピアノのための

一柳 慧

ソナタ(1954)
ヴァイオリンとピアノのための

タイム・シークエンス(1976)
ピアノのための

イン・メモリー・オヴ・ジョン・ケージ(1992-93)
尺八とピアノのための「ミラーージュ」(1998)

デュオ インターチェンジ(2011)
ヴァイオリンとチェロのための

※曲目は都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。



猿谷紀郎

慶応義塾大学法学部法律学科卒業後、ニューヨークのジュリアード音楽院作曲科に留学、同大学院を名誉奨学生として卒業(博士号)。パーシケッティ、ヘンツェ、ナッセンの各氏に師事。これまでに、クーセヴィツキ音楽財団・フェロウシップ賞、ミュンヘン・ピエンナーレ・BMWミュージックシニアター賞などを受賞。芥川作曲賞、出光音楽賞、芸術祭大賞、佐治敬三賞、3度の尾高賞を受賞。2014年には、第62回伊勢神宮式年遷宮の奉祝曲《交響詩「浄間の祈り」》を作曲。



北爪道夫

東京藝大及び同大学院修了後、77～85年現代音楽集団アンサンブル・ヴァンドリアンで企画・作曲・指揮を担当し内外の現代作品紹介に努めた。79年文化庁派遣芸術家として渡仏。以降、多様な演奏家・団体からの委嘱で新作を書き続け、また、放送番組テーマ曲や芝居など様々な音楽シーンと係わる。2度の尾高賞、中島健蔵音楽賞、ユネスコ国際作曲家審議会グランプリ、文化庁芸術祭大賞、吹奏楽アカデミー賞ほか受賞。08年より浜松「バンド維新」芸術監督。



三橋貴風 尺八

尺八の古典曲を佐々木操風、岡本竹外氏に師事。1980年の第一回リサイタルにより文化庁芸術祭優秀賞、文化庁芸術祭賞(1989)、ソロCD「竹林寄譚」による文化庁芸術作品賞(1991)、第10回中島健蔵音楽賞(1992)、文化庁芸術祭大賞(2009)、文化庁芸術選奨(2010)、紫綬褒章(2011)、3枚組CD「初傳 三谷清攢 三橋貴風」により文化庁芸術祭優秀賞(2014)等を受賞。武満徹作曲「ノヴェンバー・ステップス」のソリストとして、サイトウキネン・オーケストラ、BBCフィルハーモニー、フランス国立リヨンオーケストラ等と36回共演。新尺八NOBLE管とうちなー(沖縄)尺八を開発。大阪音楽大学客員教授。



吉村七重 二十絃箏

古典箏曲と新しい可能性を秘めた二十絃箏の音楽を国際的に発信し続ける現代日本を代表する演奏家。平成24年(2012年)春・紫綬褒章。2010年には文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、朝日現代音楽賞をダブル受賞他受賞多数。二十絃箏のスペシャリストとして、独奏曲からオーケストラとの協奏曲まで湯浅譲二・西村朝・吉松隆氏をはじめ多くの作曲家と共同作業を展開しており100曲を超える作品を初演。カメラータ・トウキョウウや celestial harmonies(USA)から多くのCDをリリース。若手演奏家の育成にも力を注いでおり二十絃箏の新作を主とした「Koto Collection Today 邦楽展」は34回を数える。



松原勝也 ヴァイオリン

東京藝術大学在学中に安宅賞受賞。新日本フィル・コンサートマスターを歴任。無伴奏シリーズ、ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏、自らの編曲によるJ.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲、プレリュードとフーガの弦楽五重奏版、ブラームス:弦楽六重奏第2番の管弦楽版など多彩な活動が目目されている。静岡AOIレジデンス・クワルテット、カルテット・アーニャメンバー、長崎OMURA室内合奏団アーティストティック・アドバイザー、東京藝術大学教授。



三宅依子 チェロ

3歳よりピアノを、10歳よりチェロを始める。桐朋学園大学音楽学部を卒業。これまでにチェロを井上頼豊、津田朝子、松波恵子の各氏に師事。ショパン国際フェスティバル、パチカン国際音楽祭など様々な音楽祭に参加。東京チェロアンサンブル主宰。



篠田昌伸 ピアノ

東京藝術大学作曲科卒業、同大学院修士課程修了。作曲を尾高惇忠、土田英介、ピアノを播本枝末子、大畠ひとみの各氏に師事。第27回日本交響楽振興財団奨励賞、第74回日本音楽コンクール作曲部門第1位、第9回佐治敬三賞、等受賞。グループ展や委嘱等での作品発表の他、ピアニストとしても、室内楽や新作初演、コラボレーション等広く活動している。作品は、コジマ録音、fontecにてリリース、全音楽譜出版社にて出版されている。東京音楽大学、国立音楽大学、等非常勤講師。



藤原亜美 ピアノ

東京藝術大学、並びにパリ国立高等音楽院を卒業。第3回オルレアン20世紀音楽国際ピアノコンクール(仏)にて第1位受賞。アンサンブル・アンテルコンタンポランのメンバーによるアカデミーに参加。在仏中よりピアノソロ、室内楽奏者として活動。帰国後はソロCDを含む録音を多数リリースし、第49回と第51回レコードアカデミー賞(現代音楽部門)受賞。東京シンフォニエッタのメンバー、またソリストとして多くの初演作品を国内外で演奏。東京音楽大学、日本大学芸術学部講師。

問合せ

JCAA事務局

☎ 03-6666-6266 (平日 10:00 ~ 17:00) FAX : 03-6666-6267

✉ info@jcaa1970.com

一般社団法人日本作編曲家協会 (JCAA) はポップス系、現代音楽系、クラシック系、歌謡曲系等多くの作編曲家が所属する団体です。2020年には創立50周年を迎えます。